



プロジェクトベース ビジネスリーダーシップ研修(P-BL)

Project-based Business Leadership Learning Program

「実践 問題感知・問題解決・企画提案 研修」へのご案内

変革が求められる時代！ 変化と競争にきっちり対応するためには、個々の人材が自発的に問題に気づき、目標設定を行い、周囲に働きかけをしつつ問題解決を図ることが必要です。今回、実務的に組織の中核をなす中堅層を対象にした研修プログラムを紹介致します。

(1) キーとなる研修の骨組みは、組織的な問題解決に不可欠な「3本柱」とします。

プロジェクトテーマを、時代の潮流変化の題材から設定します。

どの仕事にも共通普遍の基礎である問題感知と問題解決、そして企画提案に必須の「5大基本スキル」を習得します。

チームビルディングとコミュニケーションを通して課題解決をリードし協力し合う人間力を磨きます。

例えば、「お客様との打ち合わせの中から潜在的な需要のヒントをつかむ」

「プロジェクトの進行の遅れの背後にある本質的な問題の所在と構造を突き止める」

「売上げや利益の伸び悩みのデータを前にしてその奥に潜む根本的な市場の構造変化とその要因を突き止める」

「新たな事業機会の探索とビジネスプランを立案し、新規事業開発の機会を検討・実行する」

こうした営業・プロジェクト管理・経営管理などの普段の仕事の中で目の前を流れる情報の中から、問題点を掘み上げて感知する力。あるいは、事業領域の開拓を検討するといった事業戦略を構築する力。一つひとつの事象を収集・分析・体系化して全体構造を理解し、解決手段を考案し組織としての対策を立て実行に移すこと。これらの問題解決行動の一連の基本要素は、組織の要所を占めるメンバーの力を集合させてチームワークとしてリードされて初めて効果的に組織内で機能し、成果が集団としての力によって達成されることとなります。

(2) 理解力+伝達力=コミュニケーション力

人間力の基礎となる理解力と伝達力からなる真のコミュニケーション力は、課題の論理的な理解と説明力を基礎として、メンバー相互の共通の言葉、手法、およびコンセプトの共有化の基盤の上に成立します。これらは、経理財務・生産技術・営業・調達・技術開発といった個々の専門職能に必要な知識やスキルを超えた普遍的な仕事の共通基礎能力(“方法知”)であります。

(3) 講義 実習・演習 プロジェクト実践により、研修の中で身につく

本研修プログラムでは、一人ひとりにとって仕事の基本となる「情報の読み取り方」「問題の発見の仕方」「原因の理解の仕方」「解決策の創造の仕方」「チームビルディングの仕方」について、レクチャー 実習・演習 設定課題プロジェクトでの企画提案活動を通してのコースウェアによって、組織における情報行動の基本スキルを実践的に体得することを可能とします。 以上



コースウェア設計の基本手法と企画開発の経緯について

「P-B L (Project-based Business Leadership Learning Program) 実践 問題感知・問題解決・企画提案 研修」は、弊社がこれまでに取り組んできた新規事業の企画開発、およびマネジメントコンサルティングの経験を生かした手法を体系化しまして、「顧客起点」「事業変革」の視点で発想できる人材育成・開発プログラムであります。以下に、本研修プログラムの基礎をなす基本的な考え方を記します。

“概念化する力・・・論理的思考力・コミュニケーション力の向上・・・” が原点

基礎となるのは、弊社経営パートナーが参加する「情報システム学会」(<http://issj.nuis.jp/>)での活動として、弊社代表が委員および事務局をつとめる「人材育成委員会」において、今後の日本における情報システム分野における「人材育成への取組みの基本的考え方」を調査・研究し、報告書にまとめ提言しました。これが基本コンセプトの原点であります。

* 報告書 http://issj.nuis.jp/issj/jinzaiikusei_001.pdf

ここでいう「情報システム」とはコンピュータに限定するものではなく、「人間の社会・経済活動をすべて含む、人間の情報行動としての仕組み」と定義していますので、すべての職種や産業を含みます。

弊社の”P-B L”研修の基礎には「概念化できる力・言葉による形化できる力」という意味での、論理的思考力・コミュニケーション力の向上が、あらゆる方法知を支えるものと認識して、そのための実践的カリキュラムを開発してコースの全体を通して取り込んでいます。

立教大学経営学部・リーダーシップ研究所ファカルティとのタイアップ

弊社では、立教大学の経営学部発足（平成 18 年 4 月に開設）に先立ちその 2 年ほど前から同学部のコア・プログラムである B L P (ビジネスリーダーシッププログラム)のシラバス創り・教材創りの企画開発を担当しました。[「ビジネス・リーダーシップ・プログラム \(BLP\)」立教大学リーダーシップ研究所](http://ils.rikkyo.ac.jp/) <<http://ils.rikkyo.ac.jp/>>

弊社の”P-B L”研修は、リーダーシップ研究所とのタイアップによりエム・スクエアが提供する、実務的かつ学問体系に沿った研修プログラムであります。

J U A S (社団法人日本情報システム・ユーザ協会)様で公式のカリキュラムにご採用

平成 19 年 10 月末から、JUAS 様にて「問題感知力を磨くための“問題解決手法勉強会”」の命名の下で、中堅社員向けの定期開催の研修コースとして、始めました。

実業界における実践的な内容と現在目の前に生起する世の中の潮流となる諸事象を題材に選び、社会との交わりの中で教育課程が進行するコースをデザインしています。その根底においては、異なる文化的社会的背景をもつ世界の人々との交流を必須とするグローバル社会・情報社会の中で、生き抜いていく上で必要なスキルである「論理的な思考力とコミュニケーション力」を訓練するユニークなプログラムを提供しております。

以上



研修の対象者層について

「P-BL 実践 問題感知・問題解決・企画提案 研修」は、対象層の専門職種やキャリアパスの段階を問わず共通基盤として普遍的に適用される部分【Part1】と、部門特性やミッションレベルに応じてカスタマイズ適用が適切な部分【Part2】から構成されています。若手層から中堅・幹部層まで広く、応用が可能なものであります。

- 新入社員・2年目社員の総括研修として
- 若手層から中堅層
- 戦略思考と行動力を求められる幹部候補まで

一つには、「実践 問題感知・問題解決・企画提案」のための基本スキルである“方法知”は社会人の成長の各ステップを通して、普遍的な基礎力として作用します。

- これからの時代は、未来を予測できない世界である。すなわち、人々が一生の間に仕事を何度も変える必要のある時代、周囲に莫大な量の情報があふれかえっている世界の中において、変化に適応して生き抜いて行くためには、自分で自分を導いていく必要がある時代。
- このような時代には、自分の内面から自ら新しいことを学ぼうとするモチベーションが生まれなくてはならない。新しい出来事に対処する能力、将来思わぬ問題に直面したときにそれを解決する能力が重要である。そのためには学ぶ力を身に着けること、そして他者と協力する力、他国とコミュニケーションする力が重要である。
- 情報を読み解く力、即ち、読解力が全ての基本にある。

二つには、課題テーマとするプロジェクトの題材によって、個々の企業の対象層のニーズに合わせて、テーマ設定等でカスタマイズを行いながらプログラムを提供させていただくことが可能です。

以上